

# 40年暮らしたオーストラリアを離れ、 老後は日本と決めました

神戸へゆうゆうの里 林 幸一様(75歳) 令和4年10月 一人入居

オーストラリアは技術者としての僕を大事にしてくれました

父は海外航路の船員で3カ月に一度位帰ってきました。今思えば父の影響で海外を身近に感じていたのですね。35歳でオーストラリア移住を考えました。当時の日本はバブル景気。残業や休出が当たり前という働き方に疑問を感じたことがきっかけでした。オーストラリア政府が技術職の移民を募集していたのです。娘が4歳、息子が2歳の時で、妻は「ついでに行く」と言ってくれました。



オーストラリア時代のご自宅で、娘さん家族と一緒に

職場は僕のような電子技術専門とするエンジニアを大事に扱ってくれました。仕事は主にリモートコントロールやセンサー

イトなどの電子回線の開発に携わり、特許も20件位とりました。毎日16時に仕事が終わるので17時にはビーチで泳いだりして、家族と過ごす時間も充実していました。オーストラリアは社会保障が充実しており60歳位でリタイヤする人が多いですが、僕は68歳まで勤めました。

妻が日本食を欲しがったので、毎日つくってホームへ届けました

リタイアしてから一年ほどで、妻に全身の筋肉が衰えて行く病気が発覚しました。それからは妻の介護を中心とした生活になりました。3ヶ月ごとに妻の状態が進行して、杖歩行、歩行器、車いすになりました。自宅での介護を選んだのですが、僕は車椅子乗乗のコツなどもわからず、自分が立てなくなっただけでもありました。自宅介護は二年に及び、はじめは本当に辛かったです。それでも、少しずつ妻の状態を受け入れられるようになりました。

つことなく簡単に入れます。オーストラリアはおおらかな国民性で頼み事をすると「わかりました」と言ってくれるものの、約束が必ず守られるという保証はありません。食事は肉料理が中心。妻は日本食を恋しがったので、毎日僕がつくってホームまで届けました。



妻を見送ってから、老後の選択に帰国という案が

で、このゆったりした敷地も気に入りました。40年ぶりの日本の暮らして心配したことは、「日本の気候と人付き合い」でした。YouTubeで日本の人付き合いの仕方を勉強しました。

散歩をサボると海外にいる娘や息子たちからLINEでチェックが入ります

入居してまもなく一年ですが、まずは日本での生活に慣れるよう心がけています。冬の寒さは大丈夫でした。今年、久しぶりの日本の湿度の高い夏を過ごすために、「空調服」(ファン付きの服)を購入して、乗り越える決意です。里ではラジオ体操やジムトレーニングに参加。ご入居者から神戸近隣のおでかけスポットを教えてください。珍らしいものはばかりで、徳島県の大塚美術館にも日帰りしました。陶板に西洋絵画を焼き付けた美術館として有名ですが、「どうせイミテーションでしょ」と思っていたところ、本物と変わらない精巧さに圧倒され、また行きたいと思っています。海外で暮らす娘や息子とはLINEでつながっています。アプリを使えばどこにいても、お互いの居場所や移動ルートがわかります。2、3日散歩をさぼっていると娘から「パパどうしたの?」とチェックが入ります。寂しいこ

**選んだ仕事をまっとうし、妻との時間も手をぬかず、まっすぐに自分の人生を歩いて来れたのかな**

湯河原へゆうゆうの里 若勢憲一様(76歳) 令和4年3月 一人入居



出版社に入社してから引退するまでの間、水道事業のための仕事をしました

大学を卒業した時は全く就職するつもりがなく、翌年の一月に新聞を見て応募したのが水道事業を専門に扱う出版社でした。その年の10月に大阪転勤の話があり、新人のくせに立候補して転勤を勝ち取りました。僕は東京育ちだけど、大阪はとても肌に合っていました。水道の水は絶対安全でないといけない。水道局が管理し、地方自治体や地方公共団体が水道事業を営んでいます。そういう水道事業者の役にたつ専門紙や専門図書を

提供する会社です。全国のみならず海外にも取材に行きました。定年後も非常勤顧問として務めた後、NPO法人の役員に。その法人は水道管の水を止めずに、内視鏡を使って水質評価を行う技術を開発しました。75歳で湯河原へゆうゆうの里へ入居するため引退するまでの間、水道事業のために尽くすことができました。

**登山や旅行を同じ趣味にしていた妻が倒れて**

一つ下の妻との出会いは大阪転勤の時代。彼女は僕の下宿先のマンションに住んでいて、思い切った声をかけたことから、お互いを知るようになりました。彼女の勤め先は弁護士事務所でした。彼女の仕事は弁護士事務所です。7人兄弟の末っ子で我慢強く、じつと状況を観察していて、たまに言うことは的を射ていました。冗談も通じるし楽しい。盆暮れにはちゃんと墓参りに行ってすごいなと感じました。

彼女は山歩きが好きで、弁護士事務所の間と一緒に山岳連盟に入っていました。僕も一緒に登山や旅行に行きました。10年前にノ

**残された自分のための選択**

彼女が二度目の脳内出血で倒れたときは半年位入院。会話はできましたが、運動機能が落ちてしまいました。生活になりました。それでも彼女を支えながら、安心して眠る妻の横顔を見るたびに幸せだなど感じるようになりました。二年ほど前、妻は74歳で亡くなりました。辛いことでしたが、一所懸命看ることができたのが救いです。

子どもがいないので、実は二人で入居することも考えて、神戸や

彼女が二度目の脳内出血で倒れたときは半年位入院。会話はできましたが、運動機能が落ちてしまいました。生活になりました。それでも彼女を支えながら、安心して眠る妻の横顔を見るたびに幸せだなど感じるようになりました。二年ほど前、妻は74歳で亡くなりました。辛いことでしたが、一所懸命看ることができたのが救いです。

子どもがいないので、実は二人で入居することも考えて、神戸や



ありし日の奥様とカンボジア・アンコールワットで

**ものづくりで熱中し、音楽を友として過ごして来ました。今、40年ぶりの楽器に挑戦しています**

浜松へゆうゆうの里 堀内二三夫様(75歳) 令和2年2月 一人入居



幸いにも仕事は面白く定年まで勤めました

静岡県掛川市で農家を営む両親のもと、兄3人、姉2人の6人きょうだいの末っ子として育ちました。一番上の兄とは22歳、すぐ上の兄とも6歳離れており、一人っ子みたいになりました。中学を出て就職することになったのですが、まだ15歳ですからどのような就職先を決めたらいいのかもわかりません。長兄が刈谷市に住み自動車工場に働いていたので、半分旅行気分で見学を兼ねて。同じ刈谷市にある自動車部品工場に決めました。気軽に決めましたが、

幸いにも仕事は面白く定年まで働くことができました。就職して半年後の11月、優しかった母が脳梗塞で突然亡くなりました。たった数か月でしたが実家に仕送りしてきたことがせめてもの親孝行でした。プレス加工、金型製作、自動機製作を経て、50歳からは、それまでの経験を活かして修理部門に異動しました。工場内の設備の故障が試行錯誤の末にピタッと直った時の気持ち良さはたまりません。

**音楽が好きになったのはきょうだいの影響です**

音楽は兄や姉の影響で自然に好きになりました。幼い頃から兄達の家でハーモニカやギターを練習していましたし、姉は町内の盆祭りや歌うほど歌が好きで、流行歌のレコードもよく聴いていました。就職してすぐに私は小さなラジオを買いました。あの頃はレコードコンサートというものが流行っていてラジオがよく実況していました。そこで耳にしたタンゴに感動。早速、お給料でステレオを買って、タンゴの世界にどっぷり浸かりま

**定年退職直前の手術で思ったこと**

60歳で定年退職したのですが、その直前に内臓の病気で手術をしました。幸いこの時の入院はひとりでこなせましたが、これを機に「今後動けなくなった時は困るだろうなあ」と考えるようになり、自分は元気なうちに入れる施設にしようと思えました。69歳の頃、NHKの「海の近くの老人ホーム」というドキュメンタリー番組を観

た。アルフレッド・ハウゼ・オーケストラが大好きでした。25歳のころには、近所にエレクトーンを教えてくれる先生がいたので習いに通いました。二年程通って発表会にも二回ほど出ました。子供ばかりの中で大人は私くらいでしたよ。スーツを着て緊張感いっぱいでした。確か「夜霧の忍び合い」とか弾いたかな。ところがだんだん難しくなると、せつかく買ったエレクトーンは埃を被ったままになりました。

て感銘を受け、すぐに問い合わせ。系列の施設が浜松の「浜名湖エデンの園」と知り見学に行きました。そこで初めて浜松へゆうゆうの里のことを知り、改めてこちらも見学しました。緑たつぷりの中庭を歩きながら、ここに決めました。

**「浜松といえば音楽の街」と思い立ち、エアロフォンにチャレンジ**

朝は4時から5時の間に起きます。すぐにパソコンを立ち上げてYouTubeを観たり、キーボードの練習をして過ごします。朝食後に一時間のんびり散歩。散歩の途中で「おはよう」と声を掛け合う顔見知りがありました。グラウンドゴルフに誘われ仲間に入りました。

入居が決まった時、「浜松といえば音楽の街」と思い立ち、ローランドのエアロフォンというデジタル楽器を購入しました。40年ぶりに楽器の挑戦です。去年の文化祭では片足立ちでのエアロフォン演奏を思いつき披露しました。2分30秒の片足立ち演奏が無事終了すると、皆さんから温かな拍手をいただきました。そのおかげで「キーボードミュージックサークル」に誘われたのです。今は秋の文化祭を目指して練習を重ねています。みんなで一緒に上達したいですね。



エアロフォンを片足立ちで演奏する堀内様 (昨年の文化祭)